

横浜美術館館長 蔵屋美香が語る 親子できたえる「考える力」 5月19日(日)特別講座開催

第8回横浜トリエンナーレは、10代の子を持つ親を対象に、特別講座『親子できたえる「考える力」：現代アートを通して、横浜トリエンナーレでできること』を、5月19日(日)に横浜美術館で開催します。スピーカーは、蔵屋美香（横浜トリエンナーレ総合ディレクター/横浜美術館館長）です。

これからの社会を生きる子どもたちには、「自分で考える力」が求められます。そこでおすすめなのが、「現代アート」の作品を前に、親子で対話することです。作品の中には、その地域の歴史や文化、地理など、さまざまな要素が詰まっています。また、戦争や災害、気候変動、経済格差といった世界的な課題を扱っています。つまり、学校教育にたとえるなら、ひとつの作品の中には複数の教科をまたぐテーマが潜んでいるのです。「この地域はどこにあるのかな」「そこで何が起こったのかな」「原因は何だろう」「解決の方法はあるかな」…
どのような親の問いかけが子どもの観察力や共感力、想像力を引き出すのか、講座では、第8回横浜トリエンナーレを題材に、「考える力」を育むヒントをお伝えします。

[スピーカー]

蔵屋美香:横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター
千葉県生まれ。千葉大学大学院修了（教育学修士）。東京国立近代美術館勤務を経て、2020年より横浜美術館館長/横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター。第55回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館（アーティスト：田中功起）キュレーターを務め、特別表彰。多摩美術大学客員教授。慶應義塾大学、東京藝術大学をはじめゲスト講師多数。

[開催概要]

日時：2024年5月19日（日）13:30-15:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
定員：200名 *定員になり次第締め切らせていただきます
参加費：無料
* 展覧会有料エリア鑑賞には別途鑑賞券が必要です（18歳以下は無料）
お申し込み：事前申込制
URL <https://www.yokohamatriennale.jp/2024/events/10659>



第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」は、わたしたちに、災害や戦争、環境破壊、経済格差、不寛容など世界が抱えている多くの課題を投げかけます。展示作品には、息苦しさの中をたくましく生き抜こうとするひとりの人間の姿が映し出されています。右は、ウクライナのアーティスト「オープングループ」の作品です。スクリーンに映し出される武器の音を口で再現する人々の姿は、生きるために新たな知識が必要となったウクライナの今ある現実を生々しく伝えています。展覧会鑑賞を通して、今日の社会的な問題を考えるきっかけにしてください。



オープングループ《繰り返してください》2022

*プレスによるイベント当日の取材もお受付しております（下記連絡先まで）

【プレスリリースお問い合わせ】 第8回横浜トリエンナーレ広報事務局（株式会社プラップジャパン：本郷、藤井、畑野）
E-MAIL: yokotoripr@prap.co.jp TEL: 080-5887-1091（平日9:30~18:00）
【横浜トリエンナーレ組織委員会お問い合わせ】 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局広報担当（石川、西山、山本）
E-MAIL: press@yokohamatriennale.jp TEL: 045-663-7232（平日10:00~18:00）
広報用画像貸出等プレス向けサイト: <https://www.yokohamatriennale.jp/press/>

蔵屋美香が語る

(横浜トリエンナーレ総合ディレクター)

特別レクチャー

親子できたえる「考える力」

現代アートを通して、横浜トリエンナーレでできること

5/19 (日) 13:30-15:00

対象

10代のお子さまをお持ちの親御様(お子さまとの参加をおすすめします)
お子さまは、小学校高学年・中学生・高校生・大学生が対象です
お子さまお一人での参加も可能です

開催概要 事前申込制

日時: 2024年5月19日(日)13:30-15:00

会場: 横浜美術館 レクチャーホール

定員: 200名 *定員になり次第締め切らせていただきます

参加費: 無料 *展覧会有料エリア鑑賞には別途鑑賞券が必要です(18歳以下は無料)

お申し込み: QRコードからWEBサイトにアクセスしてください。

<https://www.yokohamatriennale.jp/2024/events/10659>

主催: 横浜トリエンナーレ組織委員会



これからの社会を生きる子どもたちには、「自分で考える力」が求められます。
そこでおすすめなのが、「現代アート」の作品を前に、親子で対話をすることです。

たとえば第8回横浜トリエンナーレには、世界から集まったアーティストたちの作品が展示されています。ひとつの作品の中には、その地域の歴史や文化、地理など、さまざまな要素が詰まっています。また、多くの作品が、気候変動や経済格差といった世界的な課題を扱っています。つまり、学校教育にたとえるなら、ひとつの作品の中には複数の教科をまたぐテーマが潜んでいるのです。

「この地域はどこにあるのかな」「そこで何が起こったのかな」「原因は何だろう」「解決の方法はあるかな」。親からのシンプルな問いかけが、作品を観察し、別の知識に結び付け、新しい視点を見出す子どもの発想力を育みます。

このレクチャーでは、おもにティーンエイジャーの親御さんに向けて、横浜トリエンナーレを題材に、親子の対話から「考える力」を育むヒントをお伝えします。お子さんと一緒のご参加も歓迎です!

横浜トリエンナーレ組織委員会 総合ディレクター
横浜美術館 館長
蔵屋美香

千葉県生まれ。千葉大学大学院修了(教育学修士)。東京国立近代美術館勤務を経て、2020年より横浜美術館館長/横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター。第55回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館(アーティスト:田中功起)キュレーターを務め、特別表彰。多摩美術大学客員教授。慶應義塾大学、東京藝術大学をはじめゲスト講師多数。



第8回 横浜トリエンナーレ
野草: いま、ここで生きてる



第8回 横浜トリエンナーレ

野草: いま、ここで生きてる

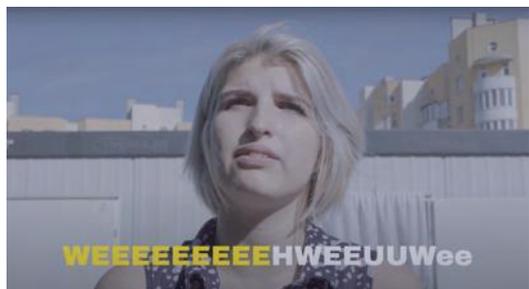
横浜トリエンナーレは、3年に一度開催される国際的な現代アートの祭典です。海外のアーティスト・ディレクターが展覧会を企画し、横浜に世界の作品が世界の作品が一堂に集まります。

第8回横浜トリエンナーレは、いまを生きるひとりひとりの姿に目を向けます。災害や戦争、環境破壊、経済格差、不寛容—私たちの世界は今日多くの問題を抱えています。この息苦しさの中を生き抜くヒントを、作品の中に見出します。

展覧会のタイトルは、中国の国民作家、魯迅(ろじん、1881-1936)が『野草』に由来します。彼がもっとも苦しい時期に書いた詩集『野草』(1927年刊)を手がかりに、展覧会の旅を始めます。

【代表的なアーティストと作品】

オープングループ 《繰り返してください》2022



ウクライナ

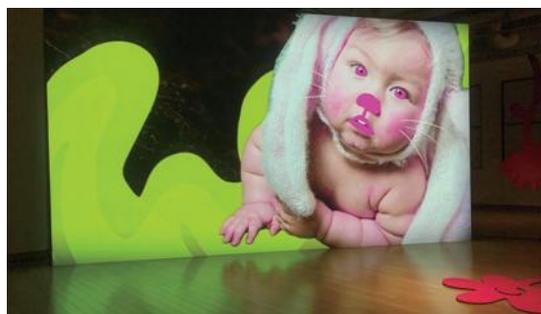
オープン・グループは、2012年に結成されたウクライナのアーティストグループです。コミュニティへの関与や協働、対話や討論をもとに作品を制作しています。

この映像作品は、ロシアによるウクライナ侵略に伴ってリヴィウの難民キャンプに逃れた人々に取材したものです。国民に配布された戦時下の行動マニュアルに想を得ています。そこには、音によって兵器の種類を聞き分けた上で、いかに行動するべきか、という手引きが示されています。武器の音を口で再現する人々の姿は、生きるために新たな知識が必要となったウクライナの今ある現実を生々しく伝えています。

ブック・フェルカーダ 《根こそぎ》2023-24

環境破壊

気候変動や環境破壊は、人間の未来や生存に関わる深刻な問題です。人間が生き延びるためのヒントは、自然を改変することではなく、むしろ自然を見習うことにあるのではないのでしょうか。作家はこの映像作品で、多くの種類が同じ土に共存し、柔軟に形を変え、依存しあって生きる植物の性質に注目しました。そんな植物のように、わたしたちも、常に変わりゆくものとしての世界を受け入れ、凝り固まった考えや旧態依然とした社会のしくみを打ち破ることができれば—その時、この映像の主人公はじめて安住の地を見つけるかもしれません。



チケット情報 **18歳以下または高校生以下は入場無料!**

鑑賞券料金

一般	横浜市民	学生(19歳以上)
2,300円	2,100円	1,200円

- ・鑑賞券で横浜美術館/旧第一銀行横浜支店/BankART KAIKOの3会場に入場可能(別日程も可)。
- ・他にも各種チケットがあります

特設WEBサイト



開催概要 | 第8回横浜トリエンナーレ「野草: いま、ここで生きてる」

アーティスト・ディレクター: リウ・ディン(劉鼎)、キャロル・インホワラー(盧迎華)

会期: 2024年3月15日(金) - 6月9日(日) 開場日数: 78日間

休場日: 毎週木曜日(6/6を除く)

開場時間: 10:00 - 18:00 | 6月6日(木) - 9日(日)は20:00まで会場

会場: 横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO、クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路

主催: 横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

公式WEBサイト: <https://www.yokohamatriennale.jp>

